

# 日刊 磐城時報

福島縣石城郡平町編組第十四  
印刷部 加藤源次郎  
印刷所 加藤源次郎  
印刷部 加藤源次郎  
印刷所 加藤源次郎  
印刷部 加藤源次郎  
印刷所 加藤源次郎

## 青沼平町長を筆頭に

### 証人二十余名

#### 近藤家の遺産をめぐる 近來の大公判

平塚村鯨岡の故近藤實平の遺産を信託し（皇國の興廢の信託十五萬圓を中心とし平町城山上旗）と軍艦旗を染め抜いた愛國坂正賢が加藤丈夫、福島商業學堂八十個を調製しこれを町内各校長近藤節太郎、白銀町小林利學校、青年團、青訓、在郷軍人光等に對し親族會決議取消の訴分會、その他の各種團體に配布秘事件第二回準備公判は十五日當日これを佩用せしめ二十八年前十時から平支部に於て中島前の日本海軍大戦の當時を想起裁判長係りて開廷、漆畑、真木させることとなつた。なほ當日大峰各辯護士立會双方から申請午後一時から松ヶ岡忠魂碑前で行した證人平町長青沼節太郎氏以下終つて平町外數ヶ所海軍大下二十余名の取調べを行った。學教官高木武雄大佐の講演會を開く豫定である。

## 海軍記念日

### 平町の催ほし

#### 召集事務検閲

二十七日の第二十八回海軍記念管内八年度召集事務検閲は十九日に在郷軍人平町海軍班では今日午前十時から夏井村役場、年の特に非常時に際會してある同午後一時から玉川村役場で行ので一般町民の愛國熱を喚起しふが、検閲官は福島縣隊區司令國防精神を張調するため白地に部山谷少佐である。

## 磐陽野球後援會で

### 吉田金作氏應援

#### マルトモホールに會合し 對策を協議す

磐陽野球界の功勞者平町八幡小で阿部政衛門氏を會長とする磐陽吉田金作氏が平町會議員候補後援會では極力吉田氏を首魁として推薦され名乗りをあげたの應援する事になつた。尙ほ吉田○番地内を疾走中横合から来た

## 第三校増築

### 近づく入札

意氣に感じて立候補せし次第につき何卒右の狀情御推量被成下貴下の御同情に預かるを得ば欣幸是れに不遇誠（後略）

平町第三小學校増築案はさきに町會の議決を経て縣へ認可申請中のところこの程認可指令が有し有志諸君の御推薦を賜はり敢て非才を顧みず立候補仕候願みれば小生萬を負ふて郷土を出てより東航西漕三十年先年職を擲り再度舊山河に親しむに至りてより日尚淺く遺憾ながら町民諸君之知己を得一萬七千圓を以て現在の校舍に離散して誠に多々たるものあり。四圍の状況斯くにして今回の擧は無謀の嫌あれども然るも尚一部辱知諸君の熱烈なるをなすものである。

## 古川改修工事の

### 五萬圓捻出問題

#### 一先づ保留となる

工費二十五萬圓の昨年度事業と南町六六自動車庫正忠(三三)が運轉する自動車の側面衝突右萬圓の捻出方について平町外二ヶ村惡水豫防組合では一昨十三日午後一時から町會議事堂に役員會を開き協議したが、現在の町財政から之が支出は容易でなく保留し近く協議する事になつた。

## 平町會議員候補者

- (累計十四名) (十五日正午まで届出の分)
- | 住所   | 氏名    | 年齢   | 所屬 | 事務    | 長 |
|------|-------|------|----|-------|---|
| 胡摩澤  | 花澤久一郎 | (五四) | 政元 | 星野甚七  |   |
| 五丁目  | 馬目武之助 | (四三) | 政再 | 丹野國一郎 |   |
| 久保町  | 會川延太郎 | (五三) | 政新 | 永山義太郎 |   |
| 一丁目  | 坂本隆藏  | (五七) | 政再 | 渡邊貫一  |   |
| 長橋町  | 川崎文治  | (三九) | 政新 | 川角兼吉  |   |
| 白銀町  | 高橋龜松  | (五四) | 政再 | 宮崎善太郎 |   |
| 搔植小路 | 堀喜一   | (四四) | 政新 | 青木保太郎 |   |

## 平署刑事と詐稱し

### 婦女誘拐を働らく

#### 泣寝入の被害者が多い

平署刑事と詐稱し婦女を誘拐し九時より税務署コートに於て中村署に檢舉され取調べを受行、戦績左の如く更に來月十一日付にて自稱石城郡湯本町三丁目日續行する筈である。

## 平卓球協會

### リーグ戦

平卓球協會チーム(日立、第三校、常磐銀行、高月、營林署、税務署)リーグ戦は十四日午前

## 村議當選者

豊間村會議員選舉は十四日執行したが、棄權四十、無効一、有効投票六百九十五で結果左の如くである。

票數	候補者	得票
六二票	沼の内 永山 喜助	六二
五九票	沼の内 志賀重右衛門	五九
五九票	沼の内 遠藤三郎	五九
五八票	沼の内 鈴木市藏	五八
五六票	沼の内 鈴木房次郎	五六
五二票	沼の内 鈴木文十郎	五二
五一票	沼の内 馬目仙十郎	五一
四七票	沼の内 阿部源兵衛	四七
四五票	沼の内 遠藤俊雄	四五
四三票	沼の内 鈴木倉之助	四三
四二票	沼の内 四家 秀雄	四二
四二票	沼の内 政井伊勢吉	四二
四一票	沼の内 遠藤 徳次	四一
二二票	沼の内 遠藤 徳次	二二

## 平町人事

結婚 湯本十九上坂力彌(二九)錦村大倉大島三三蓬來正子(二二)死 長橋町三四關内トク(八五)南町五〇小名濱町定西木部キミ(二一)鎌田町五二小林春子(一ツ)

## 物騒な湯本町

湯本町大字水野野谷字千代鶴一六九農小野久治(四七)は十五日午前六時頃自宅を盜死した、同人は數ヶ月前から極度の神經衰弱にかつてゐたものである。

## 神經衰弱で

### 縊死を遂ぐ

本清七氏は病氣のため湯本町の自邸で療養中であつたが十四日午前六時四十分遂に死去した。葬儀は十六日午後二時自宅出棺湯本町勝行院で佛式により營む筈である。

## 石城地方田植

郡下の田植は來月二十日頃から開始されるが、播種の時期によつてその收穫も異にし指導監督に統制を欠くばかりでなく晩播きは品質收量共早まき及びぬので郡農會その他關係筋では數年來從來の慣習より一週間乃至二週間の早まきを獎勵指導に努めてゐる。

春の  
バーベリ、トレンヂ、スプリングコート。種々入荷  
平町四丁目停車場通  
**正札堂洋服店**  
電話四三六番

通學用制服と  
**ゴム引マント賣出**

第二學校制服  
紺サージ通學服  
合ゴムマント13-0、

味噌と油  
**吉**  
山崎合名會社  
福島縣平町  
電話(營業部専用)一〇番  
(一般用)二七番  
振替東京一九七五五番

明治生命 磐城代理店 山崎與三郎

**吸入用酸素** 純度 99%  
モノサシ  
マ ス  
ハカリ  
体温器  
寒暖計

●秤ノ取緒・錘系・修覆致シマス

**關内藥局**  
電話四〇番

急性慢性を問はず  
**淋疾は立派に全治す**  
(一)淋疾尿道炎、(二)消渴、(三)膀胱カタルには驚く可き効目がある  
高級治淋新藥 **トリプチン**  
特約店 **大平屋藥店**  
電話六四二番

内科 小兒科  
花柳病科  
**藤沼醫院**  
(入院應需)  
平町紺屋町  
電話平園五〇七番

改稱御知らせ  
新藤屋(別館)改め  
鐵道省 御指定  
遞信省  
**旅館 甲陽館**  
店主 武田コウ  
平町驛前(電話一四八番)

**耳鼻咽喉科 專門**  
**氣管食道科 專門**  
病室完備・自炊の便あり  
平町南町 **大和田醫院**  
電話一七〇番

**通學生用革靴**  
ボツクス編上靴(中等學生用).....5.00ヨリ  
同 短靴(女學生用).....4.50ヨリ  
同 サンドル(小學生用).....1.00ヨリ  
他ゴム靴各種取揃テアリマス  
平四丁目 **菊地靴店**

**毒核** 婦人病 淋病 皮膚病 専門  
**腸胃** 腸十二指腸 胃性 腸病 専門  
**村松科醫院**  
【番七〇一話電】 町南町平

大藏省允許  
**毒核無毒**  
共同共栄  
昭和八年五月十四日

**專門内科一般**  
〔内科ハ何デモ診療致マス〕  
呼吸器病バカリデハアリマセン  
平町南町六五改(電話一八一番)  
**川井内科診療所**  
醫學士 川井重之  
女醫 川井安子

良品廉賣に勝る  
商略なし  
磐城セメント特約代理店  
金物問屋 和洋銅鐵  
**釜屋商店**  
磐城國平町五丁目  
電話九番 九九番  
振替貯金口座東京一〇九五六番

確實敏捷は**久**の生命なり

父清七儀豫テ病氣中ノ處藥石効無ク十四日午前六時四十分死去致候ニ付此段生前辱知ノ諸彦ニ謹告候也  
追テ葬儀ハ十六日午後二時出棺勝行院ニ於テ佛葬相營ミ可申候  
昭和八年五月十四日  
男 柏木  
親戚 齋藤 昌  
惣代 永久保 得  
友人 比佐 昌  
惣代 鈴木 辰三  
石川 徳三  
壽郎 平萬 哲 諱